

一般演題（ポスター）

2025年11月14日(金) 13:30～14:15 〇〇 ポスター9

[P17] 一般演題（ポスター） 17 ロボット1

座長：柳 舜仁(川口市立医療センター)

[P17-6] 傾向スコアマッチングを用いたda Vinci SPとXiによる右側結腸癌手術の短期成績の比較

林 久志, 石山 泰寛, 芥田 壮平, 皆川 結明, 中西 彬人, 西 雄介, 藤井 能嗣, 石井 利昌, 梶田 浩文, 平沼 知加志, 平能 康充 (埼玉医科大学国際医療センター消化器外科)

【背景】

近年、ロボット支援手術の進歩によりda Vinci SPシステムが導入され、より少ないポートでの大腸癌手術が可能となった。当院ではロボット支援下手術として単孔で行うDa Vinci SPサージカルシステム（以下SP）を2025年1月から導入している。今回右側結腸癌に対してSPとXiに分けて比較検討したので報告する。

【方法】

2021年3月から2025年3月までにSPおよびXiで右側結腸癌手術を施行した81例を対象とした。対象をSP群17例とXi群64例に分け、Propensity score matching (PSM)（年齢・性別・BMI・ASA・cT・cN）を用いて背景因子を調整した上で、短期成績について後方視的に検討した。また、術前および術後1日目、3日目のCRP/アルブミン比（以下CAR）の変化を経時的に評価し、変化率を比較検討した。

【結果】

PSM後の両群13例ずつで検討し、患者背景には両群間で有意差はなかった。手術時間の中央値はSP群で185分、Xi群で179分となり、両群間で有意差を認めなかった（ $p=0.72$ ）。出血量の中央値はSP群で3ml、Xi群で21mlであり、SP群で少なく有意差を認めた（ $p=0.04$ ）。術後在院日数(6日vs 7日、 $p=0.74$)、CD>2の術後合併症は両群間で有意差はなかった(0.1% vs 0%、 $p=0.33$)。CARの経時的变化では術後1日目、3日目ともにCAR変化率はSP群とセンハンス群で有意差を認めなかった（ $p=0.59$ 、 $p=0.12$ ）。

【結語】

右側結腸癌に対するSPを用いた手術は、Xiを用いた手術と比較すると手術時間に有意差を認めなかったが、出血量ではSP群が少ないという結果であった。術後合併症や在院日数、CAR値やCAR変化率も両群間に有意差を認めなかった。右側結腸癌に対する手術はSPでもXiと同等の成績であり、SP導入に適している可能性が示唆された。まだ症例数が少ないため今後も検討する必要がある。